1975年 昭和50年
国鉄最後のＳＬ旅客列車が室蘭線の室蘭－岩見沢間を運行し、道内外から訪れた多くの鉄道ファンに見守られながらＳＬ旅客列車の歴史に幕を下ろしました。

1976年 昭和51年
栗沢町の繁栄を支えた万字炭鉱が閉山しました。その後、炭鉱地域と市街地との物流や市民の足として長く親しまれてきた国鉄万字線が昭和 60 年に、幌内線が昭和 62 年に相次いで廃線となりました。

1978年 昭和53年
昭和 49 年から工事が進められてきた南光園下水道処理場が完成しました。これまでの簡易処理方式から、バクテリアを使った生物処理方式となり、河川の水質汚濁が改善されていきました。
　また、平成４年には、栗沢町で道内初の回分式活性汚泥法を採用した処理場が完成しました。

1981年 昭和56年
８月の集中豪雨では、５日間に岩見沢で 410 ミリ、北村で 422 ミリもの大雨が降り、２千を超える住居で床上・床下浸水の被害があり、たくさんの住民が避難生活を強いられました。水が引いた後に帰宅した住民は、一家総出での後片付けに追われました。
　また、この年から運行を開始した移動図書館あおぞら号は、平成23年に惜しまれながらも引退。現在は、東日本大震災で被災した宮城県名取市で、図書館施設の一部として活用されています。

1983年 昭和58年
岩見沢の秋の風物詩となっている「ふるさと百餅（べい）祭り」が始まりました。秋祭りに市民参加のイベントをと、岩見沢の開基 100 年にあわせて企画されました。現在も市内外から多くの参加者や見物客が訪れる岩見沢の一大イベントとして市民に親しまれています。
　また、北村で空知管内初となる 42 度の塩泉が噴出。これを利用した北村温泉施設は、市外から通うファンも多い人気の温泉となっています。
　秋には、道央自動車道の札幌 IC －岩見沢 IC 間が開通。国道 12 号線、国道 234 号線と併せて、道央圏の交通の要衝として機能しています。

1986年 昭和61年
北海道21 世紀博覧会が開催されました。86 日間にわたり開催された岩見沢始まって以来の一大イベントには、全国から延べ 135 万人が来場。博覧会場は遊園地となり、現在もたくさんの親子連れでにぎわっています。

1988年 昭和63年
中心市街地に再開発ビル「ポルタ」が完成しました。核テナントの西友は、当時の市街地にあった金市館や三番館などの大型商業施設とともに、市街地の活性化に貢献しました。
　その後、中心市街地では大型商業施設の撤退が相次ぎ、平成17年には大和地区で郊外型の大型商業施設が立て続けにオープン。買い物客の流れも郊外型に移っていき、ついに平成 21 年にはポルタビルから西友が撤退しました。そのポルタビルは、平成 24 年に「であえーる岩見沢」として生まれ変わり、この４月にオープンした生涯学習センター「いわなび」とともに中心市街地のにぎわいの創出に大きな期待が寄せられています。

市内を走り回り、多くの市民に親しまれてきた移動図書館あおぞら号

百餅（べい）祭りの初代大臼は、直径２ｍ。現在の大臼は７代目で、直径 2.1 ｍ

エレファントショーや兵馬俑など数々の珍しい出展でにぎわった 21 世紀博覧会

長く市民に愛され続けていた３代目の岩見沢駅舎

1994年 平成6年
毛陽町にカナダのログハウスをモデルにした宿泊施設、メープルロッジがオープンしました。本格的なフィンランド式サウナや地元の食材にこだわった自慢の料理を提供するレストランは、日帰り客にも人気です。平成 10 年にオープンした毛陽交流センターとともに、秋になると、紅葉を楽しむ方や毛陽産のりんごを買い求めにくる方で一層にぎわっています。

1998年 平成10年
栗沢町由良に栗沢クラインガルテンがオープンしました。約 10ha の敷地内には、滞在型市民農園や日帰り型市民農園、体験農園などがあり、カントリーライフを満喫できる農業体験施設です。滞在型市民農園は空き待ちとなっているほか、イベントには定員を大きく超える応募があるなど、人気の施設です。

2000年 平成12年
12 月 10 日の未明、昭和８年以来まちの顔として市民に親しまれてきた岩見沢駅舎が炎に包まれました。木造の駅舎は焼失し、プレハブ駅舎での営業が始まりました。その後、駅舎の建て替えにあたり、平成 17 年に公募型デザインコンペを実施。平成 21 年に完成した複合駅舎は、外壁に用いられた刻印レンガなど市民参加の取り組みも評価され、平成 21 年のグッドデザイン大賞を受賞しました。

2001年 平成13年
国内屈指の規模を誇る野外音楽堂キタオンがオープンしました。平成 22 年には、ＪＯＩＮ　ＡＬＩＶＥがスタート。環境の整ったいわみざわ公園内が会場になっていることもあり、野外で行われるロックフェスティバルとしては珍しく親子連れも多いようです。

市町村合併 2006年 平成18年
明治時代に、岩見沢村から北村と栗沢村が分村して以来 100 年余りが経ち、平成の大合併によって全国で市町村合併が相次ぐ中、岩見沢市・北村・栗沢町が合併しました。
　また、年末には、大正 12 年に始まって以来、市民の娯楽・文化として親しまれていた、ばんえい競馬からの撤退が決まりました。北海道の馬文化として北海道遺産に選定され、旭川、帯広、北見とともに多くの人々に愛されてきましたが、レジャーの多様化や不況の影響もあり撤退を余儀なくされました。

2012年 平成24年
年明けからの豪雪災害に、９月の局地的豪雨による水害と、２つの大きな自然災害に見舞われました。これらの災害の課題として情報の発信力が不足していた市は、ツイッターやフェイスブックといった即時性の高い情報を発信できる民間のインターネットサービスの利用を開始し、より多様な情報発信に努めています。

　市は、市制施行 70 周年を迎え、ばらサミットや記念式典をとおして、歴史を振り返るとともに未来への思いを新たに歩んでいく節目の年と考えています。
　本格的な人口減少社会を迎える中、10年先、20年先を見据えた「岩見沢に住んでいて良かった」と実感していただけるまちづくりを進めていきます。

問合先　市秘書課広報係

３月号で、昭和 28 年の文中に橋の完成と渡し場の廃止が同時期であるかのような記述がありましたが、橋は永久橋への架け替えで、すでに市民は橋で南北を行き来していました